



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代朝鮮語における接頭辞の意味・用法について (2)
Author(s)	門脇, 誠一
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 109, 1-29
Issue Date	2003-02-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34043
Type	departmental bulletin paper
File Information	109_PL1-29.pdf



現代朝鮮語における接頭辞내의 意味・用法について(2)

門 脇 誠 一

本論は、門脇(2002a)に引き続き、現代朝鮮語の「方向・強調」を表す接頭辞 내 の意味・用法について記述するものである。前回は、接頭辞내の用法のうち、「方向・強調」に関しいずれの特徴をも有する5つの語について記述した。今回は「方向」の特徴は有するが、「強調」の特徴は持たない語の用法について記述することにする。対象にした語は、前回の門脇(2002a)で扱えなかった내치다、それに今回新たに扱うことにした내굽다, 내긋다, 내비추다, 내비치다, 내세우다, 내쉬다 の計7個である。

記述に際しては、前回同様に내の意味・用法に関し、特に接頭辞が付かない場合と付いた場合とがどのような関係にあるかに焦点を当てて考察することにする。

なお、分析するに当たり、韓国語用例検索(Kaist)並びに google (韓国)を利用した。また、用例を収集するに当たっては2002年4月から行なっている大学院のゼミで学生たちの協力を得たことを記しておく。

今回協力を得た者は次の3名である。

北海道大学大学院文学研究科言語学専攻 博士課程 高橋学

北海道大学大学院文学研究科言語学専攻 博士課程 金恒泊 金恵鎮

北海道大学大学院文学研究科言語学専攻 修士課程 金京淑

また本論を書くに当たって使用した辞書は次のとおりである。

『표준 국어대사전』(標準国語大辞典) 1998 (韓国)「標準」

『연세 한국어사전』(延世韓国語辞典)	2000 (韓国)「延世」
『朝鮮語大辞典』	1986 (日本)「角川」
『朝鮮語辞典』	1993 (日本)「小学館」

1. 本論

1. 1

ところで、本論に入る前に 前回の論文では扱えなかった내치다について触れておきたい。この語は意味について特殊化を起こしているため少々説明が必要である。まず、接頭辞の付かない치다 から見ることにする。

この語はいろいろな意味を有しているが、比較的よく使われる意味について考察してみよう。

まず自動詞は、もっぱら(風雨が)吹きすさぶ;(雷などが)鳴る;(波が)起こるといった自然現象を表すものである。

例

눈보라가 치다 (吹雪が吹きつける), 폭풍우가 치다 (暴風雨が吹きすさぶ): 천둥이 치다 (雷が鳴る), 번개가 치다 (稲妻が光る)、벼락이 치다 (雷が落ちる): 파도가 치다 (波が立つ)、물결이 치다 (波が打ちつける)

この場合 接頭辞들이 を付けると「強調」の意味のほかに、「外から内に」という方向の意味が加わることになる。

例

열어놓은 창으로 비가 들어쳐 송양섭은 일어나 창문을 닫았다. 開けておいた窓から雨が吹き込んだのでソギャンソプは起き上がって窓を閉めた(kaist)

「延世」には以下の例文が載っている。

빗발이 작은 빗마루와 망 안까지 들어쳐도 주화는 움짱하지 않았다. 雨が小さな縁側と部屋の中まで吹き込んでもチュファは身動き一つしなかった

순옥의 방 좁은 창에도 빗방울이 후두둑 들어쳤다. スノックの部屋の狭い窓にも雨だれがばらばらと吹き込んだ

一方、他動詞の場合は基本的な意義は「(人や物を) 殴る、叩く、打つ」の如き打撃動詞であるが、この意味から「釘や杭などを叩いて打つ；打楽器、ピアノなどを演奏する；(車で) ぶつけて轢く；攻撃する」などの意味が派生する。

例

박석태가 최창수의 어깨를 툭 치며 물었다. パックソックテがチェチャンスの肩をぽんと叩いてたずねた。

방황하는 자식들을 나무라고 방탕한 자식들을 매로 칠 때는 큰 문제가 생기지 않습니다. 彷徨する息子をたしなめ、放蕩息子を鞭で打つときは大きな問題が生じない

그런 무심한 숙부보다는 문짝에 못이라도 하나 쳐 주는 마을 사람들이 훨씬 더 의지가 되었다. そんな思いやりのない叔父よりは扉に釘1本でも打ってくれる村人たちのほうがずっと頼りになった

그는 피아노 앞으로 가서 아무런 인사 소개도 없이 피아노를 치기 시작하였다. 彼はピアノの前に進みでて何の挨拶もなくピアノを弾き始めた

오토바이는 사람을 치고 그대로 도망가 버렸습니다. オートバイは人を轢いてそのまま逃げてしまったようだ

이제 무장대의 젊은이들은 관군의 중심부를 치고 있었다. 今武装隊の若者たちは官軍の中心部を攻撃していた

一方、내치다についての辞書の記述を見ると「標準」「延世」それぞれ次のようになっている。

「標準」

내치다

① 손에 든 것을 뿌리치거나 던지다 手に持ったものを振り払ったり投げ捨てる

잡은 손을 내치고는 밖으로 나가 버렸다. 握った手を振り払って外へ出てしまった

화가 난 꼬마는 갖고 있던 딱지들을 아무 데고 내치기 시작했다. 怒った子どもは持っていた貝殻を所かまわず投げ始めた

② 강제로 밖으로 내쫓다 無理やりに追い出す

왕은 충신을 성 밖에 내치고 간신들을 가까이했다. 王は忠臣を城の外へ追い出して姦臣たちをそばに置いた

저놈들을 당장 곤장을 쳐서 성 밖으로 내쳐라! あいつらをすぐさま鞭打ちにして城外に追い出せ

「延世」

내치다 2

① 물리치거나 내쫓다. 突っぱねる、追い出す

그녀는 때없이 찾아오는 태환을 막정하게 내치거나 거절하지 못했다. 彼女は突然訪ねてくるテーフアンを冷たく突っぱねたり断ることができなかった

상희가 아무리 강하게 그를 내친다 해도 석우는 그녀의 곁에 머무를 수밖에 없었다. サンヒがいくら強く彼を追い払うと言ってもソグは彼女のそばに留まっているしかなかった

② 내던져 버리다. 投げつける

개천가 눈밭을 헤치고 호박돌 하나를 집어들었다 내쳤다. 川辺の雪原を掘り起こしてホバック石を拾い上げて投げつけた

그를 향해 돌아서더니 오른손에 든 부채를 접었다가 그를 향해 내치는 듯한 손길로 뿜다. 彼のほうを向いて振り返ると右手に持った扇をたたんだ後彼に向かって投げつけるような手つきで開いた

兩辞書ともに내치다の語義として2つあげているが、「小学館」や「角川」があげているように以下の4つに分けたほうがわかりやすいと思われる。⁽¹⁾

1. (物を) 投げ出す、捨てる

화가 나서 의자를 내쳐 버렸다. 腹が立って椅子を放り投げてしまった
「小学館」

2. 振り払う、突き放す

매달린 아이를 내치다 すがりつく子どもを突き放す「小学館」

3. (要求などを) 突っぱねる

임금 인상의 요구를 내치다 賃金の引き上げ要求をはねつける「小学館」

4. 追い出す

이른바 칠거지악(七去之惡)이라 하여 아내가 아들을 낳지 못하거나
시부모를 잘 모시지 못할 때, 그리고 투기하거나 말을 많이 하는 등 일곱
가지 잘못을 저지르면 내쫓을 수 있다는 자못 회한한 논리가 통용되었던
것이다. 얼핏 생각하면 남편이 마음만 먹으면 얼마든지 처(妻)를 내칠
수 있 었을성 싶기도 하다. (google)

いわゆる、七去之惡といって、妻が子どもを産めないとか、舅、姑によく
仕えないとき、そして焼きもちを焼いたりおしゃべりをしたりするなど7種
類の悪を犯すと追い出すことができるというとても風変わりな論理が通用し
ていたのである。まあ考えてみれば夫が決めさえすればいくらかでも妻を追
い出すことができたとも言えそうだ

上の내치다の用法を見ると、いずれの場合も接頭辞の付かない치다の語義
にはない新しい意味を獲得していることがわかる。そして、接頭辞내が付く
ことによって1. と4. では「中から外へ、前方へ」といった「方向」の意
味が付加され、1. から4. のすべてに「強調」の意味が加えられたと考
えることができる。又、自動詞の意味では接頭辞내がつかないことがわかる。

(1) 「角川」には次の一例しか例文がない 쓰레기를 내치다 ごみを投げ捨てる

1.2 내굽다

1.2.1 굽다

この語は、ほぼ日本語の「曲がる」「曲がっている」という動詞・形容詞に対応する語である。これから派生される他動詞は굽히다である。

森田（1977）の分析を利用すると、「線状、平面状の事物の屈曲・湾曲」に関し、①「本来まっすぐな線状のものが外からの物理的または化学的力によって、そうでなくなる状態の変化・作用」また、②「初めからまっすぐでない形をしている状態」。③「まっすぐでない曲線状に方向を変えて進む。移動の方向変化」を表す点では日本語と共通点を有しているといえる。

用例は次の通りである。（表示のないものはすべて「標準」からの引用である）

① 은수저는 조금만 힘을 주어도 쉽게 굽는다. 銀製のスジョはちょっと力を入れても簡単に曲がる

피는 물보다 짙은 법이며 팔은 안으로 굽는다는 말을 확인한 듯싶어 일시나마 외로움은 무산하고 친애의 정이 솟았다.

血は水よりも濃いのが道理で、腕は内側に曲がる⁽²⁾という言葉を確認したかのように一時だが寂しさを吹き消し親愛の情がわきあがった

② 어깨가 둥그랴게 굽어져 햇빛을 등지고 있을 때에는 나이가 많은 할머니의 등처럼 보였다. (kaist)

肩は丸く曲がっていて日差しを背にしているときは年取ったおばあさんの背中のように見えた

굽은 비탈길을 내려가자니 누군가가 산모퉁이 느티나무 그늘에 앉아 있었다. 曲がった坂道を降りようとすると誰かが山すその角のケヤキの木の陰に座っていた

(2) これは諺で「人間は誰でも親しい者をひいきする」という意味である

길이 안쪽으로 굽더니 문득 넓어졌다. 道が内側にカーブしていたがすぐに
広がった

kaist の用例を見ると、多くの場合身体部位 (몸 体, 상체 上体, 등 背中、
허리 腰、팔 腕、다리 脚、어깨 肩, 무릎 膝) 等に関して用いられて
いることがわかる。⁽³⁾

③ 오른쪽으로 길을 굽어 올라가면 정상이 보일 것이다. (kaist)

右のほうに道を曲がって上っていくと頂上が見えるはずだ

산길을 10 여 분 굽어서 가면 절이 나온다. (kaist)

山道を 10 分あまり曲がっていくとお寺に出る

산모퉁이를 굽어 돌자 저만치 산등성이에 서서히 움직이는 광차가 보였다.
(kaist) 山すそを曲がっていくと少し離れた尾根にゆっくりと動いている鉱
石運搬用の貨車が見えた

경상도는 남해와 동해에 좋은 어장을 가지고 있어 해산물도 풍부하고, 남북
도를 크게 굽어 흐르는 낙동 강 주위의 기름진 농토에서 농산물도 넉넉하게
생산된다. (google) 慶尚道は南海と東海に良好な漁場を有しており、海産
物が豊富で、南北道を大きく蛇行して流れる洛東江周囲の肥沃な農地から農
産物も十分に生産されている⁽⁴⁾

その他、次のように「電波、光」に関しても使えることがわかる。

전파는 보통 전자기력의 영향이 없으면 직전하지만, 해안선 부근에서는
전자기력이 없어도 전파가 굽어서 전해지는 현상이 일어난다. (Kaist)

電波は普通電磁氣力の影響がなければ直進するが、海岸線付近では電磁氣

(3) 首、顔、口、唇、眉毛 などについても 굽다 が使用できるかについては使いにくいという
回答を得た。首、顔、口、唇、眉毛については 비뚤어지다 (ゆがむ、曲がる) を使うのが
普通だという。

(4) 「道を曲がって」などのように他動詞的な意味については、山道などのように大きくカーブし
ている場合は굽어は使えそうだが、都会のビルディングのように 90 度になっている角を
曲がる場合には使いにくいと回答している。google、kaist に現われる例はやはり山道や川の
例である。

力がなくても電波が曲がって伝わる現象が起こる

햇빛이 물 속으로 굽어 들어간다. 日光が水中に曲がって入る（作例）

他方、日本語の「曲がる」は この他「傾く」、「ねじれている」という意味で使用されるが、韓国語의 굽다 にはそのような用法はないし、また、「傾く、片よる」という意味もない。

ちなみに、굽어 살피시다 という表現があり、「神や仏が照覧なさる」という意味で使用されるが、これは「天から神や仏が下界を首を曲げて、あるいは身をかがめて見る」ということのものである。また굽어 보다としても使われることがある。

例

“가혹한 운명의 신이여! 부디 이 불쌍한 처지를 굽어 살피소서.” (google)
過酷な運命の神よ! どうかこの憐れな立場を御照覧あれ

이 고개에 오르면 서쪽으로 내설악 일대와 동남쪽으로 동해와 기암절벽이 이루는 외설악의 절경을 한눈에 굽어 볼 수 있다..... (google)

この峠に登れば西側に内雪岳一帯と東南のほうに東海と奇岩絶壁が作り出している外雪岳の絶景が一目で眼下に見渡せる

1. 2. 2 내굽다

この語は「標準」には登録されているが、「延世」には記述がない。「標準」の記述は、「外に向かって曲がる」という具合に「内側から外側に」という「方向」の意味が加わるだけで「強調」の意味はない。用例も、会話では使われないようで 使用するとすれば必ず「外に」という副詞を伴って使われるのが普通のものである。Kaist、google にも用例は 2, 3 例しか現われない。

우리 나라 속담에, “팔이 들어굽지 내굽나.” 라는 말이 있다. 무슨 일을 결

정하거나 판단해야 할 때, 다른 사람보다는 자기 가족이나 친족 등 자기와 관계가 있는 사람에게 유리한 쪽으로 생각이 기운다는 뜻이다. (Kaist)

我が国の諺に「腕は内側に曲がるのであって、外側に曲がるだろうか」という言葉がある。何かことを決定したり、判断しなければならないとき、他人よりは自分の家族や親戚等自分と関係がある人に有利なように考えてしまうという意味である。

1.3 내긋다

1.3.1 긋다

긋다 には同音異義語として2つ立てられている。

긋다 1 は、基本語義が「延世」にあるとおり、①「鉛筆のような細いもので紙などに線をひくこと」である。それから、②「限界や区分をつける」③「マッチをする」④「手や指、流星などが空を切る」⁽⁵⁾⑤「酒代などを掛売りする」⑥「ナイフなどで切る」⑦「(顔に) しわを作る」⑧「線を引いて削除する」⑨「弓を射る」などの意味が派生されることになる。

긋다 2 は、自動詞「雨がやむ」他動詞「雨宿りする」である。ここで問題になるのは 긋다 1 のほうである。

用例は以下の通りである。

긋다 1

① 중요한 단어에 밑줄을 그어라. 重要な単語に下線を引きなさい

생도들로 하여금 착한 일을 한 날은 일기책에 빨간 연필로 동그라미를 그리고, 그렇지 못한 날은 엑스를 긋게 했다.

生徒たちをして、いいことをした日には日記帳に赤鉛筆で丸を書き、そうでない時はエクス(×印)を画かせた

금을 긋다 線を引く ; けじめをつける 선을 긋다 線を引く 직선을 긋다 直線を引く

(5) 「十字を切る」という意味でも使用される。

② 이번 일에 책임을 분명히 그어야지 어물쩍 넘겨서는 안 된다. 今度のこと
とで責任を明らかにすべきで曖昧に終わらせてはいけない

일제는 이 사업을 시작할 때 논밭의 경계를 제대로 그어 지적도(地籍圖)
를 만들어 놔야 네 것 내 것이 확실해지고 ——

日帝はこの事業を始めるとき田畑の境界をきちんと引いて地籍圖を作ってお
いてこそ他人と自分のものがはっきりしてきて——

③ 그는 벽에 딱성냥을 그어 불을 붙였다. 彼は壁に摩擦マッチをすって火
をつけた

그는 적이 안심한 얼굴로 방 문턱에 걸터앉으며 담뱃대에 불을 그었다.
(kaist)

彼はいくらか安心した顔で部屋の敷居に腰掛け、キセルに火をつけた

④ 성호를 긋다 聖号(十字)을切る

바른손으로 가슴에 십자를 긋다 右手で胸に十字を切る

밤낮 없이 남쪽 하늘을 그으며 날아온 유엔군 비행기가 폭격을 일삼자…
朝となく夜となく南の空を切って飛んできたUN軍の飛行機が爆撃を続けるや——

유성이 그 하늘 끝을 그으며 소리 없이 떨어져 내렸다 流星がああ空の果
てを切って音もなく落ちてきた

인영은 한 걸음을 비켜선 후, 들고 있던 나뭇가지로 가볍게 한차례 허공을
그었다. (kaist)

イニョンは一步退いた後、持っていた木の枝で軽く1回空を切った

⑤ 내일 드릴 테니 오늘 밥값은 장부에 그어 두세요. 明日支払うので今日の
飯代は帳簿につけてください

외상값이 밀려서 이제 그을 곳도 없다. 付けがたまって、もう付けのきくところもない

⑥ 종이를 칼로 그었더니 말끔하게 잘라졌다. 紙をナイフで切ったらきれ
いに切れた

칼로 그은 상처는 치료를 못 받아서 그어진 줄마다 고름이 맺혀 있었다. ナ

イフで切った傷は治療を受けなかったので切られた傷がどれも膿んでいた

⑦ 오반장은 이마에 깊은 주름을 그었다. (kaist) オ班長は額に深いしわを作った

⑧ 그는 자신의 글에서 군더더기 부분은 모두 그어 버렸다.

彼は自分の文から余分な部分をみんな消してしまった

⑨ 궁수 한 사람이 활을 한 번 굿자 화살은 과녁의 한가운데를 꿰뚫었다.

一人の射手が一度弓を射るや矢は的の真ん中を貫いた

なお、인상을 굿다, 우거지상을 굿다 などの形で「しかめっ面をする」という意味にも 使われるが、これは熟語として扱ったほうがいいし、「表情を作る」という意味では 짓다 のほうがよく使われるようである。

1.3.2 내긋다

一方、내긋다 に関しては、「延世」にはその記述がなく「標準」には次のように記述されている。

① 前方に向かってまたは外に出るように線を引く ② 息を吐き出す

しかし、実際の用例を見ると①の意味で使用した例は見つからず、ほとんどが②の意味であった。しかも辞書には載っていないが、긋다の語義④であげた意味、つまり「手や指で空を切る」という意味でも使用されていることがわかる。

① 用例なし

② 息を吐き出す

최 선달이 그만 흑하고 숨을 내그었다.

チェソンドルは思わずフーと息を吐いた

한껏 들이쉴 숨을 길게 내그으며 심호흡을 한다.

思い切り吸い込んだ息を長く吐き出して深呼吸をする (google)⁽⁶⁾

(6) この文は google の북녘의 말글살이 (北朝鮮の言語生活) という欄に載っていたものであるが、そこには「息を吐く」という意味しかあがっていない。

③ 手や指などで空を切る

어릴 적 나의 꿈은 마술사가 되는 것이었다. 모자에서 비둘기를 만들어 내는 그런 가짜 마술사 말고, 빗자루를 타고 날며 손만 내그으면 뭔가 없던 것이 만들어지기도 하고 있던 것이 모양을 바꾸기도 하는 진짜 요술을 부릴 줄 아는 그런 마술사. (google)

子どものころ私の夢は魔術師になることだった。帽子から鳩を出すそんな偽者の魔術師ではなく、箒にまたがって飛び、手で空を切りさえすれば何か無かった物が作り出されたり、今まであった物が形を変えたりする本物の妖術を使えるそんな魔術師

「標準」によると、내긋다 の②の語義は北朝鮮で使用されるものとなっているものである。しかし、実際調査してみると google に用例が現われており韓国でも使用されていることがわかる。①の語義で使用されている例は kaist, googleの中には探すことができなかった。

1.4 내비추다

1.4.1 비추다

비추다は 日本語の「照らす」「写す・映す」にほぼ対応する他動詞である。

① A 이 / 가 B 을 / 를 C 으로 / 로 비추다 AがBをCで照らす

A 가 / 이 C 을 / 를 비추다となり具格の名詞が主語や目的語として現われ場合もある。

② A 이 / 가 B 을 / 를 C 에 비추다 AがBをCに写す

Cは鏡、水面など

C 이 / 가 B 을 / 를 비추다 CがBを映す

③ A 이 / 가 B 을 / 를 C 에 비추다 AがBをCに透かす

Cは光、X線など

④ A 이 / 가 B 을 / 를 C 에게 비추다 AがBをCにほのめかす

⑤ ~에 비추어 の形で ~に照らし合わせると

비추다「標準」

① 손전등을 비추다 懷中電燈を照らす

형광등 한 쌍이 방을 비추고 있었다. 一對の蛍光灯が部屋を照らしていた
따뜻한 봄 햇살이 정원의 잔디밭을 비추고 있어 실내는 좀 무더운 감이 들었다. 暖かい春の日差しが庭園の芝生を照らしていて、室内はちょっと蒸し暑いようだった

별과 달이 하늘에서 환히 세상을 비추고 있었다. 星と月が空から明るく地上を照らしていた

회중전등으로 발밑을 비추다「小学館」 懷中電燈で足元を照らす

탐조등이 해상을 비추다「角川」 探照灯が海上を照らす

해가 조용히 어린 아이들의 얼굴을 비추다「角川」 太陽が静かに子どもたちの顔を照らす

② 거울에 얼굴을 비추다 鏡に顔を写す

호수는 산 그림자를 비추고 있었다. 「角川」 湖水は山の影を映していた

강물에 자신의 얼굴을 비춰 본다. 「延世」 河に自分の顔を映してみる

작은 손거울 속에 자신을 비추어 보면서 그는 갑자기 눈을 빛냈다. 「延世」
小さな手鏡の中に自分を映しながら彼は急に目を輝かせた

③ 햇빛에 필름을 비추어 보았다. 日光にフィルムを透かしてみた

엑스선에 가슴을 비추었다. X線に胸を透かしてみた

머리를 조금 들어올려 그의 얼굴을 이리저리 불빛에 비춰 보았다. 頭を少し持ち上げて彼の顔をあちこちと灯りに当て透かすように見た

근태는 호주머니 속에서 주민등록증을 꺼내 형광등에 비춰 본다. クンテはポケットの中から住民登録証を取り出して蛍光灯にすかして見る

④ 입후보할 의향을 비추다「小学館」 立候補する意向をほのめかす

⑤ 내 경험에 비추어 볼 때 이 사업은 성공하기가 어렵다. 私の経験に照らしてみると、この事業は成功が難しい

상식에 비추어 생각해 보면 네 행동은 지나친 감이 있다. 常識に照らして考えてみると、お前の行動は行き過ぎの感がある

1. 4. 2 내비추다

この語は上述の両辞典を含め、「角川」にも「小学館」にも載せられていないが、実際は比較的よく使われるとのことで、google、kaist にも用例は少なくない。

① 照らし出す

今のところこの語義を表す用例を探し出すことはできなかったが、インフォーマントによると 비추다의 ①に載せた例文は接頭辞内をつけることが可能だとのことであった。

② 映し出す, 現す 示す

흥분과 심급(心急)을 가라앉히고, 우리의 통일이 인류 역사의 새 장을 여는 작업이 되도록 한울님 마음을 온전히 내비추는 천도교인들의 영성(靈性)을 더욱 단련해야 할 때이다. (Google)

興奮と心急を沈め、私たちの統一を人類歴史の新しいページを開く作業となるよう神の御心を完全に映し出す天道教の人々の靈性を一層鍛えなければならぬときである。

이 영화는 냉전체제의 전형적인 결과물인 〈쉬리〉와는 정반대에 위치하고 있으며, 임권택 감독이 만든 차가운 이산가족의 현실을 내비추는 영화 〈길소뜸〉과도 또 다른 좌표를 차지하고 있는 것이다. (google)

この映画は冷戦体制の典型的な産物である〈シュイリ〉とは正反対に位置しており、イムクオンテク監督が作った冷たい離散家族の現実を現している映画〈キルトトウム〉ともまた異なる座標を占めているものである。

파도에 살짝 살짝 부끄러운 듯 속살을 내비추는 백사장 (google) 波にちらちらと恥ずかしそうに肌を現す砂浜

의원님 모두는 “어항 속의 금붕어” 처럼 일거수 일투족 모든 활동이 주민들에게 내비추어지고 있음을 명심해야합니다 (google)

委員の皆さんは「金魚鉢の中の金魚」のように一挙手一投足すべての活動が住民に映し出されていることを肝に銘じるべきです

홈페이지를 열며

파릇한 새싹이 거칠고 매마른 대지에서 놀리어지내다.

촉촉한 비에 의해 사슬에서 풀리듯 우리에게 희망을 내비추어 줍니다.
(google)

ホームページを開けて—— 青い新芽が荒いやせ地に押さえつけられ時間を過ごし 湿った雨によって鎖から解き放たれたように希望を映し出してくれる

③ 現す：顔をだす

검은 구름때가 찢어지더니 달이 환하게 얼굴을 내비추었다. (google) 黒雲が切れて月が顔を現した。

〈출발 모닝 와이드〉라는 아침정보 프로그램에 잠깐씩 얼굴을 내비추는 리포터 역할부터 시작해 이것 저것 가리지 않고 여러가지 단역을 꾸준히 해 나가면서 치료비로 진 빚을 겨우 갚아나갈 수 있었다. (google)

〈出發モーニングワイド〉という朝の情報プログラムにちょつとずつ顔を出すリポーター役から始めてあれやこれやえり好みをせずに脇役を根気よく続けながら治療費として借金したお金を返すことができた

④ ほのめかす

북에 전달된 황인성총리의 대북 전통문 내용은 강성산 북한총리의 25 일자 제의가「정상회담의 가능성을 내비추면서 핵문제를 희석해보려는 의도」라는 판단에 기초한 것으로 풀이된다. (google)

北に伝達されたファギンソン総理の対北伝達文の内容はカンソンハン北韓総理の 25 日付け提議が「サミット会談の可能性をほのめかしつつ核問題を曖昧にする意図」という判断に基づいたものと解釈できる

비추다 には「光源がある対象を照らし出し、その結果その対象の姿が明

らかなる」という意味と「鏡や湖水などが対象を映し出す」という意味がある。後者は、鏡や湖水などが反射した光を利用し、あたかも自らが光源となって対象を照らし出しているかのように捉えたものである。

一方、내비추다という語は、比較的よく使用されているにもかかわらず辞書に登録されていないのは不思議である。日本で編纂された辞書はたいいてい韓国・北朝鮮で出版された辞書を参考にしているので、それに登録されていないのはある意味では仕方がないと言えるかもしれないが、これから編纂する場合は是非とも登録すべきものである。接頭辞の付かない비추다の語義と比べてみると、まず、비추다の有している語義、「照らす」「写す」「透かしてみる」といった意味に、新たに「示す、現す、(顔を)出す」という語義が付加されたといえよう。

例えば, 얼굴을 비추다 と 얼굴을 내비추다 においては、前者は「顔を照らす」あるいは「(鏡などに) 顔を写す」という意味になり、後者は「顔を現す」という意味になるといった違いがある。つまり、내비추다 には 비추다 にはない「現す、出す」といった意味が付加されていることがわかる。ただし、新たに獲得された語義の場合、よく観察してみると、対象となるのは具体的なものよりは、마음 (心) などの抽象的なもののほうが普通のようなものである。

なお、비추다 という語に対して 次に扱う비치다という語は 形も意味も類似していることから用法に混同が生じているように思われるが、それについては 비치다の項で扱うことにする。

1. 5 내비치다

1. 5. 1 비치다

自動詞

① C 에 A 이 / 가 B 비치다 C にAが光る(照る) Aは「光」を初めと

する光源体

어둠 속에 달빛이 비치다 暗闇に月の光が照る

밖엔 눈이 소리도 없이 소용돌이치고 거리의 집집에선 점점이 붉고 따스한 빛이 창문으로 비치고 있었다. 外は雪が音もなく渦巻き、通りの家々からは点々と赤く暖かな灯りが窓を通して射していた

② C에 A 이 / 가 비치다 Cに Aが映る ; 見える ; 姿が現われる ; 気配が見える

번쩍이는 번갯불에 그의 늙은 모습에 비치었다. ぴかっと光る稲光で彼の逞しい姿が見えた

창문에 사람 그림자가 비쳤다. 窓に人の影が映った

화면에 비친 조국 강산이 너무나 아름답다. 画面に映った祖国の江山が実に美しい

그는 수면에 비치는 아침 하늘을 둘러보았다. 彼は水面に映る朝の空を見渡した

김철의 눈에 언뜻 난감해하는 기색이 비치더니 이내 차가운 분노의 기색이 떠올랐다. キムチョルの目にちらっと困り果てた様子が見えたと思ったらすぐに冷淡な怒りがこみ上げてきた

그는 어두워진 호수에 산기슭을 돌아가는 차들의 불빛이 비치는 것을 바라보았다. 「延世」彼は暗くなった湖水に山すそを周っていく車の光が映っているのを眺めた

잔잔한 강물 위에 산이 거꾸로 비쳐 있었다. 「延世」静かな川面に山が反対に映っていた

좋지 못한 징조가 비치자마자 그는 얼른 하던 일에서 손을 뗄 준비에 들어갔다. 「延世」よくない兆しが見え始めるや彼はすぐに仕事から手を引く準備にとりかかった

③ C에 A 이 / 가 비치다 Cに Aが透けて見える Cは透き通ったまたは薄いもの

이 쓸쓸한 집에 어울리지 않을 만큼 화려하고 속이 비치는 분홍빛 여자 속옷

이 커다란 남향 창문 옆에 걸려 있었다. この寂しい家にふさわしくないほど
派手で中が透けて見えるピンク色の女性の下着が大きな南向きの窓の横にか
かっていた

가래에 피가 비치다 痰に血が滲んで見える

마누라는 흰 저고리에 속옷이 비치는데 얇고 검은 통치마를 입고 있었다. 妻
は白いチョゴリに下着が透けて見える薄くて黒い筒状のスカートををはいてい
た

④ C 에 / 에게 A 이 / 가 B 으로 / 로 비치다 C にとって A が B として
映る ; 認識される

내 눈에는 그의 행동이 상사에 대한 아부로 비쳤다. 私の目には彼の行動が
上司に対するへつらいに映った

내가 다른 사람들에게 그를 무시하는 것으로 비칠까 봐 말과 행동을 조심스
럽게 했다. 私が他の人に対して彼を無視しているようにとられるかと思い
言葉と行動を慎重にした

글씨를 그렇게 흘려서 쓰면 성의 없는 사람으로 비치기 쉽다. 文字をそんな
風に崩して書いたら誠意がない人間と思われやすい

그가 내 눈에 어릿광대로 비치고 있다는 사실을 그 자신은 눈치채지 못하고
있을 것이다. 「延世」彼が私の目に道化者として映っている事実を彼自身は
気づいていないようだ

문턱을 넘고 있는 소년이 한 마리 청구렁이로 내 눈에 비쳤다. 「延世」敷居
をまたいでいる少年が一匹の青大将として私の目に映った

他動詞

① A 이 / 가 B 을 / 를 비치다 A が B を現す B は 顔、姿など

너무 바빠서 집에 얼굴을 비치 시간도 없다. 忙しすぎて家に顔を出す時間
もない

② A 이 / 가 B 을 / 를 C 에게 비치다 A が B を C にほのめかす

그는 이번 선거에 출마할 의향을 어느 정도 측근들에게 비쳤다. 彼は今度の選挙に出馬する意向をある程度側近に見せた

동생에게 결혼 문제를 비쳤더니 그 자리에서 필쩍 뛰었다. 弟に結婚問題をおおせたらその場で飛び上がって喜んだ

엄마는 나를 여의사를 만들고 싶다는 눈치를 또 한번 비쳤지만 나는 싫다고 했다. 母は私を女医にしたいという意向をもう一度見せたが私はいやだと言った

1.5.2 내비치다

自動詞

① B에서 (로) A이 / 가 내비치다 Bから (を通して) Aが光る、照る
구름 사이로 맑은 햇살이 내비친다. 雲の間から澄んだ日光が照る
아파트 창문에서는 불빛이 밝게 내비쳤다. アパートの窓からは電灯の光が明るく輝いていた

그 아파트의 유리창으로 불빛이 환하게 내비쳤다. そのアパートのガラス窓から明かりが明るく輝いた

② A이 / 가 C으로 / 로 내비치다 AがCへ 現われる
그러는 박의 표정에는 음험한 분노 같은 것이 내비쳤다. そうしているパックの表情には陰険な怒りのようなものが見えた

심한 고통을 참아 내려는 노력이 언뜻언뜻 내비쳤지만 그녀는 자신의 표정을 알지 못하는 듯 보였다. ひどい苦痛を耐え抜こうという努力がちらっちらっと見えたが彼女は自分の表情がわからないようだった

③ A이 / 가 내비치다 Aが透けて見える

그의 땀에 젖은 남방이 살갗에 달라붙어 속살이 내비쳤다. 彼の汗で濡れた半そでシャツがくっついて肌が透けて見えた

속살이 겉으로 내비치는 수영복 肌が外に透けて見える水着

땀에 젖은 그의 옷이 살갗에 달라붙어 구릿빛 가슴이 조금씩 내비쳤다. 汗でぬれた彼の服が肌にくっついて赤銅色の胸が少しずつ透けて見えた

他動詞

① A 이 / 가 C에 / 에게 B을 / 를 내비치다 AがCにBを表す; 見せるBは姿や行動; 感情や考えなど

그는 친구들에게 잠시 얼굴을 내비치고는 곧장 집으로 돌아왔다. 彼は友達にちょっと顔をだしてすぐ家へ帰った

아버지는 딸의 결혼식에서 딸에게 눈물을 내비치고 말았다. 父は娘の結婚式で娘に涙を見せてしまった

주위 사람에게 억울한 심정을 내비치다 周囲の人々にやりきれない心情を吐露する

잠시 후에 학원 문이 뿔뿔 열리며 그녀가 얼굴을 반쯤 내비쳤다. 「延世」しばらくして予備校の門がぎゅーっと開いて彼女が顔を半分ほど見せた
그러다 그는 야비한 웃음을 내비쳤다. 「延世」そうしていた彼は下品な笑いを浮かべた

가게 주인은 그만 나가 달라는 암시를 노골적으로 내비쳤다. 「延世」店の主人はすぐにも出て行ってほしいという気持ちを露骨に表した

② A 이 / 가 C에 / 에게 B을 / 를 내비치다 AはCにBをほのめかす
그는 자기가 다니는 대학에선 항상 커트라인이 최고인 법학과에 다닌다는 것을 은근히 내비쳤다. 「延世」彼は自分が通う大学ではいつも合格最低ラインが最高の法学部に通っていることをそれとなくほのめかした
그는 언론에 한동안 드라마 출연을 자제하겠다는 뜻을 은근히 내비쳤다. 彼は言論にしばらくドラマの出演を自制するという意思をそれとなくほのめかした

비추다に他動詞としての用法しかないのに対して、비치다には自動詞の用法と他動詞の用法があるのが特徴的である。意味の点から見ると、両者に「顔、姿などを現す」「ほのめかす」という意味があるが、この意味では 비치다のほうが一般によく使われるという。実は、発音を聞いてみると、비추다の過去形は 비쳤다 [pichuwo?ta] であるが、円唇性はほとんどなくなり 비치다の過去形 [picho?ta] との違いがわからないほどである。韓国人自身も

区別がつきにくいことを認めている。さらに 現在連体形、未来連体形を始め他の活用形も 実際の発話では区別がつきにくいことがわかる。

비추다 の持つ「照らす」という語義と비치다の持つ「光る、写す」という語義の類似性と音声的な類似性から互いに混同されるようになっているのではないと思われる。비추다 が「顔を出す」「ほのめかす」の意味で使用されているのは 비치다と混同された結果ではないかと考えられる。⁽⁷⁾

1.6 내세우다

1.6.1 세우다

この動詞は自動詞서다から派生した他動詞であり、ほぼ日本語の「立てる；建てる；起こす」などに対応する。

세우다 は自動詞서다から派生する他動詞であり、自動詞서다の基本語義はA「垂直に位置を占める」とB「動きが止まる」の2つである。そこから세우다の基本語義はA「垂直に位置を占めるようにする」とB「動きが止まるようにする」と考えることができる。

他動詞の 세우다のAは、日本語①「立てる；立たせる」にほぼ対応する。これから②「建物を建てる」③「計画・予定・生計を立てる」④「組織・伝統・学説などをうち立てる」⑤「功績を挙げる」⑥「顔を立てる；体面を保つ」⑦「証人・歩哨などを立てる」などの意義が派生する。またBは「止める；立ち止まらせる」に対応するが、これから派生すると思われる語義は認められない。

A 「垂直に位置を占めるようにする」

① C 에 A 이 / 가 B 을 / 를 세우다 CにAがBを立てる、立たせる

A 이 / 가 B 을 / 를 C 에서 세우다 AがBを Cで立たせる

들판에 허수아비를 세우다 野原に案山子を立てる

길에 팻말을 세우다 道に立て札を立てる

(7) 同様に形の類似によって混同されているものに次の語がある。가리키다「指し示す」という語가 가르치다「教える」の意味で使用されることが多いが、その混交語と考えられる 가르키다という語も「教える」という意味で使用させている。

그가 그녀의 겨드랑이로 손을 밀어넣어 부축해 세운다. 「延世」 彼が彼女の脇の下に手を押し入れて支えて立たせた

이번엔 그를 거꾸로 세웠다. 「延世」 今度は彼を逆立ちさせた
무릎을 세우고 앉았다. 「作例」 膝を立てて座った

선생님은 졸고 있던 학생을 자리에서 일으켜 세웠다. 「標準」 先生は居眠りをしていた学生をその場で立たせた。

② C 에 A 이 / 가 B 을 / 를 세우다 C に A が B を建てる

교외에 양로원을 세우다 郊外に養老院を建てる

③ A 이 / 가 B 을 / 를 세우다 A が B を立てる 집 지을 계획을 세우다 家を造る計画を立てる

계획 計画以外に対象となりうるものには、次のようなものがある。

예정 予定, 생계 生計, 계획 計策, 예산 予算, 대비책 對備策, 작전 作戰, 방안 方案

④ A 이 / 가 B 을 세우다 A が B をうち立てる 육상대회에서 신기록 세우다 陸上大会で新記録をうち立てる

新記録以外に対象となりうるものには、次のようなものがある。

전통 伝統, 질서 秩序, 국가 기강 国家規綱, 조직 組織, 학설 學說, 규율 規律

⑤ A 이 / 가 B 을 / 를 세우다 A が (功勞・手柄などを立てる、あげる)

그는 어제 경기에서 우리가 이기는 데에 큰 공을 세웠다.

彼は昨日の競技で私たちが勝つのに大きな功績を立てた

⑥ A 이 / 가 C 에게 B 을 / 를 세우다 A が C に B を保つ

B には 체면 体面, 자존심 自尊心, 명예 名譽, 위엄 威嚴 などがくる

죽은 할아버지의 명예를 세운 것도, 살아 있는 사람들의 체면을 빚낸 것도 아니다. 「延世」 死んだ祖父の名譽を保ったのでも、生きている者たちの体面を輝かせたのでもない

⑦ A 이 / 가 B 을 / 를 C 으로 / 로 세우다 A が B を C として立てる

연장자를 마을 대표로 세우다 年長者を村の代表として立てる

그 남자를 증인으로 세두다 その男を承認として立てる

⑧ (移動している人・物)을立ち止まらせる・止める

그 두 사람은 길 한가운데에 차를 세운 채 싸우고 있었다. その二人は道の真ん中に車を止めたまま喧嘩をしていた

잠시 침묵을 지키던 심동호 씨가 방을 나서려는 큰아들을 세웠다. 「延世」しばらく沈黙を守っていたシムドンホさんが部屋を出て行こうとする上の息子を立ち止まらせた

세우다には、これらの語義の他に핏줄을 세우다「青筋を立てる」날을 세우다「刃を立てる」고집을 세우다「我を張る」などの用法がある。

1.6.2 내세우다

一方、내세우다 は「前に；表に」という「方向」の意味が加わっていることと、意味の特殊化が起こることがわかる。

① A 이 / 가 B 을 / 를 C 에 세우다 A が B を C に立たせる

A 이 / 가 B 을 / 를 C 으로 / 로 세우다 A が B を C のほうへ立たせる

반장을 맨 앞줄에 내세우다 級長を一番先頭の列に立たせる

신입 사원을 직원들 앞에 내세워 소개하였다. 新入社員を職員の前に立たせて紹介した

지휘자는 연주자를 무대 정면으로 내세운 다음에 청중들에게 박수를 부탁했다. 指揮者は演奏者を舞台の正面に立たせてから聴衆に拍手を促した

지리에 밝은 친구의 차를 앞으로 내세우고 나는 그 뒤를 따라갔다. 地理に明るい友達の車を前のほうに出して私はその後についていった

② A 이 / 가 B 을 / 를 C 에 세우다 A が B を C に立てる

A 이 / 가 B 을 / 를 C 으로 / 로 세우다 A が B を C として立てる

C には 代表、候補などの役割を現すものがくる

젊은 사람을 대통령 후보에 내세우다 若い人を大統領候補に立てる

저 회장 대리에는 김용학을 내세우기로 했습니다 あの会長代理にキムヨ

ンハクを立てることにした

번영회 사람들이 김 사장을 만장일치로 회장으로 내세웠다. 繁榮会の人々が金社長を満場一致で会長に立てた

변호인단은 피고의 어린 딸을 증인으로 내세우겠다고 했다. 弁護人の会は被告の幼い娘を承認として立てるつもりだと言った

회사 쪽 사람들을 후보로 내세우고 입후보 등록 마감일을 앞당겨 버렸습니다. 会社側の人たちを候補として立て立候補の登録の締切日を繰り上げたしまった

③ A 이 / 가 B 을 / 를 세우다 A が B を前面に立てる

어머니는 어려운 일이 생기면 큰딸을 내세워 일을 처리하곤 하셨다.

母は難しいことが発生すると一番上の娘を前面に出してことを処理なされた

이번 불법 대출 사건을 그 사람이 정치권 인사를 내세워 해결하려고 했다. 今度の不法貸出事件は彼の政界の人士を前面に立てて解決しようとした

건물주는 세입자들을 쫓아내기 위해 주먹깨나 쓰는 사람들을 내세웠다. 建物の所有者は借家人を追出すために腕っ節の強い連中を前面に立てた

④ A 이 / 가 B 을 / 를 C 으로 / 로 세우다

A が B を C として 主張する、唱える、打ち出す、掲げる

B には名詞句だけではなく文がくることがある

A 이 / 가 B 라고 세우다 A が B だと主張する

자신의 주장을 당당하게 내세우다 自分の主張を堂々と言い張る

서로 자기 이익만을 내세우게 되면 갈등만 점점 더 심해진다. 互いに自分の利益のみを主張することになれば葛藤だけがさらに一層ひどくなる

오늘날에 와서는 대부분의 나라가 민주주의를 내세우고 있다. 今日に至って大部分の国が民主主義を唱えている

그는 자기 입장만 내세우고 남의 의견을 들으려 하지 않았다. 彼は自分の立場ばかり主張して他人の意見を聞こうとはしなかった

이들은 하늘의 자손임을 내세워 자기 부족의 우월성을 과시하였다. これらの人々は天の子孫であると主張し自分の部族の優越性を誇示した

근대의 이념들은 한결같이 과학과 합리, 자연과 이성의 법칙들에 의지하고 있음을 내세우고 있지만 불행히도 저는 끝내 거기에 동의할 수 없었습니다.

近代の理念はおしなべて科学と合理、自然と理性の法則に立っていると主張しているが、不孝にして私は最後までそこに同意できなかった

비폭력을 투쟁 원칙으로 내세우다 非暴力を闘争の原則として唱える

자신들만이 합리적이라고 내세우다 自分たちだけが合理的だと主張する

그는 부친으로부터 배운 기술을 유일한 재산으로 내세우고 있는 목수이다.

「小学館」彼は父親から習った技術を唯一の財産として掲げている大工だ

⑤ A 이 / 가 B 을 / 를 (C 으로 / 로) 세우다 A가Bを(Cとして)

自慢する、高く評価する

⑥ A 이 / 가 B 라고 세우다 A가Bだと自慢する、評価する

자신의 업적을 내세우다 自分の業績を自慢する

자신이 문제를 해결했음을 내세우다 自分が問題を解決したと自慢した

지금 세상엔 명문 출신임을 내세워 보았자 오히려 웃음만 살 것이다. 今世間では名門の出身だと自慢してみてもかえって顰蹙を買うだけだろう

아들을 최고의 신랑감으로 내세우다 息子を最高の花婿候補として自慢する

그녀는 자신의 그림을 걸작으로 내세우지 못해 안달이 나 있었다. 彼女は自分の絵を傑作として評価できなくていらだっていた

일부 사람들은 그가 대단한 인물이라고 내세우지만 알고 보면 그는 실속 없는 사람이다. 一部の人たちは彼が大した人物だと高く評価するがわかってみると彼は中身のない人間だ

上の用例を見ると、①②については 基本語義のAに「前に、外に」という「方向」の意味が加わっていることがわかる。それは 으로 / 로, 예 という「方向」を表す助詞と共起することが多いことからわかる。③については文脈上「前面」に押し出すという意味が強く現われていると思われる。④⑤⑥については接頭辞のついていない形にはなかった意味が新しく加わっ

たとえられる。

ちなみに、基本語義 B の「動きを止める」という意味では全く関与していないことがわかる。

1. 7 내쉬다

쉬다という語にはいくつかの同音異義語がある。「休息をとる；休む」「息をする；呼吸する」「腐りかけてすっぱくなる」「声がかすれる」「米のとき汁に浸す」などの意味を表すが、내쉬다が関係するのは「息をする；呼吸する」という意味である。

1. 7. 1 쉬다

「標準」「延世」にはそれぞれ次のような記述がある。

「標準」

① 息をする；呼吸する

숨을 쉬다 息をする

가쁜 숨을 쉬다가 한참 만에 후유 하고 숨을 길게 내쉬고 -

息切れがしていてかなり経ってからホッと長く息を吐き出して-

② ため息をつく

한숨을 쉬다 ため息をつく

「延世」

① 呼吸する

멀리서부터 따라온 듯 숨을 가쁘게 쉬면서 다가왔다. 遠くからついてきたようで息をはは一言いながら近づいてきた

숲 속으로 들어서자 숨을 쉬기가 한결 수월해졌다. 森の中に入るや呼吸するのが一層楽になった

② ため息をつく.

유치규는 땅이 꺼지게 길게 한숨을 쉬며 맥없이 머리를 주억거렸다. ユチギユは地面に穴があくほど長くため息をついて力なくうなだれた

1.7.2 내쉬다

쉬다ここでは「呼吸する」という意味で使用され、吸う場合と吐く場合のいずれをも含むものである。ところが 接頭辞내がつくと「吐き出す」意味になり、들이쉬다「吸いこむ」と対語をなすことになる。

例

그는 터질 듯한 가슴을 진정시키느라 몇 번 숨을 들이마셨다가 내쉬었다.
彼は張り裂けそうな胸を沈めようとして何度も息を吸い込んだり吐き出した
りした

후회에서인지 안도감에서인지 모를 한숨을 길게 내쉬고 그는 돌아섰다. 後
悔からか安堵の気持ちからか長くため息をついて彼は振り返った

한숨을 길게 내쉬면서 그는 손수건으로 이마의 진땀을 훔쳤다. 長くため息
をつきながら彼はハンカチで額の脂汗をふき取った

上の用例を見てわかるとおり 내쉬다は常に「呼吸する」しかも「吐き出
す」という意味でしか使用しないことがわかる。

2. 結論

以上、今回は門脇（2002a）に続いて、7 個の語に関し、接頭辞 내の意味・
用法について述べてみた。調査の結果、接頭辞 내が有する「方向・強調」
の特徴がどのように現われるか、また意味に関して新しい意義をどのように
獲得するかに関しては、単語によってかなり異なることがわかる。上の結果
を整理すると以下の通りである。

1. 내치다 に関しては、接頭辞が付かない場合의 치다 には自動詞と他
動詞の用法がある。自動詞の場合は、(風雨が)吹きすさぶ；(雷などが)鳴
る；(波が)起こるといった自然現象を表わす語義を有し、この場合は、接

頭辞 들이 が付いて「強調」の意味の他に、「外から中へ」という「方向」の意味が加わることになる。

一方、他動詞の場合は、基本語義は「(人や物を) 殴る、叩く、打つ」であるが、接頭辞 내가付くと 次のように基本語義を失い、以下のような語義を新たに獲得することになる。

1. (物を) 投げ出す、捨てる
2. 振り払う、突き放す
3. (要求などを) 突っぱねる
4. 追い出す

以下の6個の語は、いずれも対語として接頭辞 들이の付く語が存在するので、しかも、「方向」の特徴を有するが、「強調」の特徴は有しないものである。

2. 내굽다 用例が極端に少なく、調査した限りでは“팔이 들이굽지 내굽나.”「腕は内側に曲がるのであって外側に曲がるだろうか」という諺の例だけである。この例では、対語의 들이굽다とともに使用されているのが特徴である。

3. 내긋다 긋다の有する基本語義の「線を引く」という意味で「中から外へ向かって」線を引くという意味で使用された用例を探すことはできなかった。多くは、「息を吐き出す」「手や指で空を切る」という意味で使用されていることがわかる。

なお、流星が空中を流れる様子を表すのにも使用されているのが興味深い。

4. 내비추다 接頭辞の付かない비추다 の語義と比べてみると、まず、비추다の有している語義、「照らす」「写す」「透かしてみる」といった意味に、新たに「示す、現す、(顔を) 出す」という語義が付加されていることがわかる。また、내비치다 という語と比べてみると面白いことがわかる。

비치다 は「顔、姿などを現す」「ほのめかす」という意味でよく使用される語であるが、비추다 も同じ意味で使用されるいることがわかる。これは、上に述べたように発音上類似していることから混同されているのではないかと思われる。

5. 내세우다 基本語義Bの「動きを止める」という意味には全く関与しないことがわかる。Aの「主張する；掲げる」「自慢する；評価する」とい

う意味は新しく獲得したものである。

6. 내쉬다 「呼吸する」という意味で使用されるが、多くの場合 対語의들이쉬다 「吸い込む」と一緒に現われている。

参考文献

森田良行 (1977) 『基礎日本語』 角川書店

門脇誠一 (1997) 「朝鮮語の接頭辞내について」日本語と外国語との対照研究 IV 『日本語と朝鮮語』下巻 研究論文集 国立国語研究所

門脇誠一 (1998) 「現代朝鮮語における接頭辞 내리について」北海道大学文学部紀要 47-3

門脇誠一 (1999) 「現代朝鮮語における接頭辞 치について」北海道大学文学部紀要 48-3

門脇誠一 (2001) 「現代朝鮮語における接頭辞들이について」北海道大学文学研究科紀要 104

門脇誠一 (2002a) 「現代朝鮮語における接頭辞 내の意味・用法について」北海道大学文学研究科紀要 107